

2026年5月 アンソロピックによる金融業務向けAIエージェントの展開と市場への構造的影響

Gemini 3.1 pro

序論：エージェントックAIがもたらす金融エコシステムの転換

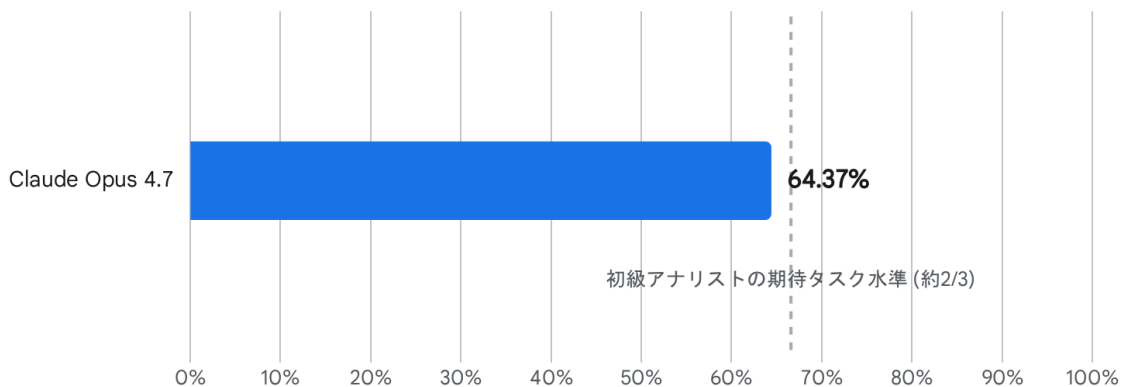
2026年5月5日、ニューヨーク市で開催された特別イベントにおいて、人工知能開発の世界的リーディングカンパニーであるアンソロピック(Anthropic)は、金融サービス業界のワークフローを自動化するために特別に設計された10種類の「金融業務向けAIエージェント(Agents for financial services)」を正式に発表した¹。この発表は、銀行、資産運用会社、保険会社、および金融テクノロジー(フィンテック)企業が抱える最も労働集約的な業務プロセスを根底から覆す可能性を秘めており、同社が単なる大規模言語モデル(LLM)の提供者から、特定産業に深く入り込む包括的な「AIプラットフォームプロバイダー」へと戦略的な進化を遂げたことを強く印象付けるものとなった¹。

ウォール街を筆頭とするグローバル金融機関は、その歴史において常にテクノロジー導入の最前線に立ち、トレーディング、アンダーライティング(引受業務)、融資、および資産運用アドバイザリーの各領域で、リサーチ能力と生産性を向上させる技術を早期に採用してきた⁶。2026年にNVIDIAが実施した調査データによれば、金融サービス企業の61%がすでに生成AIを利用または評価の対象としており、そのうちの89%がAIの導入によって「コスト削減と収益増加の双方を実現した」と報告している⁶。しかしながら、これまでの生成AIの適用範囲は、膨大なテキストの要約や情報検索、チャットインターフェースを通じた「質問応答」といった受動的なタスクに留まっていた⁶。

今回のアンソロピックの発表が市場に与えた衝撃の本質は、AIが受動的なアドバイザーから、実際の業務プロセスを自律的に実行(Act on the work)する本格的な「エージェントックAI(Agentic AI)」へと移行した点にある⁶。同NVIDIAの調査においても、金融機関の42%がエージェントックAIの使用または評価を進めており、その過半数(56%)がナレッジ管理と情報検索をAIエージェントの最優先ユースケースとして挙げている現状がある⁶。

アンソロピックの新たな金融エージェント群は、同社の最新かつ最高性能のモデルである「Claude Opus 4.7」を中核エンジンとして駆動する²。この基盤モデルは、複雑な金融タスクの処理において最先端の性能(State-of-the-art)を誇り、Vais AIが提供する権威ある「Finance Agent Benchmark(金融エージェント・ベンチマーク)」において、業界トップとなる64.37%というスコアを記録した²。このスコアが意味するところは極めて重大である。業界の分析によれば、この到達度は金融機関における入社初年度のアナリスト(エントリーレベル)に期待される業務タスクの約3分の2を、AIがすでに自律的に遂行可能な水準に達していることを示している⁸。

Vals AI 金融エージェントベンチマークにおける性能評価



Claude Opus 4.7は64.37%のスコアを記録し、初年度アナリストに期待されるタスクの約3分の2を自律的に遂行可能な水準に到達している。

Data sources: [Anthropic](#), [FSTech](#)

本稿では、発表された10種類のエージェントの詳細な技術的仕様、基礎となる「参照アーキテクチャ」の構造、Microsoft 365や各種データプロバイダーとの統合メカニズム、そしてこの技術革新が金融業界の雇用構造、巨大金融資本のIT戦略、および厳格な規制環境(コンプライアンス)に与える深遠な影響について、徹底的な分析を展開する。

金融業務向けAIエージェント10種の全容と機能的分類

アンソロピックが提供を開始した10種類のAIエージェントは、「即座に実行可能な(ready-to-run)」テンプレートとして設計されており、金融機関が従来数ヶ月を要していたAIの実働環境への導入を、わずか数日間に短縮することを可能にしている²。これらのエージェントは、業務の性質に基づいて「リサーチおよびクライアント対応(Research and client coverage)」と「財務および内部オペレーション(Finance and operations)」という2つの主要なドメインに大別される²。

それぞれの領域におけるエージェントは、特定の高度な専門業務をターゲットにしており、これまで人間のアナリストが長時間にわたって手作業で処理していた情報の収集、分析、フォーマット化、および検証のプロセスを一気通貫で自動化する。以下の表は、発表された全10種類のエージェントの名称、所属カテゴリー、および詳細なユースケースのマッピングである。

エージェント名称	カテゴリー	主要な機能およびユースケース
Pitch Builder	リサーチ・クライアント対応	潜在顧客のターゲットリストを作成し、コンパラブル(類似企業)分析を実行した上で、クライアントとのミーティングに用いるピッチブック(提案用プレゼンテーション資料)の草案を自動生成する ¹ 。
Meeting Preparer	リサーチ・クライアント対応	電話会議や対面ミーティングの直前に、クライアントや取引相手(カウンターパーティ)に関する包括的なブリーフィングレポートを合成し、重要な論点を整理して提供する ⁴ 。
Earnings Reviewer	リサーチ・クライアント対応	企業の決算発表のトランスクリプト(議事録)や規制当局への提出書類を迅速に読み込み、既存の財務モデルを更新するとともに、投資テーゼに関連する重要な変更点やリスク要因にフラグを立てる ⁹ 。
Model Builder	リサーチ・クライアント対応	企業の財務諸表(バランスシート等)、外部からのデータフィード、およびアナリストが入力した前提条件を統合し、複雑な財務モデルをゼロから構築および保守する ⁹ 。
Market Researcher	リサーチ・クライアント対応	特定のセクターや発行体の市場動向を継続的に追跡し、膨大なニュース報道、規制当局への提出書類、およびブローカーのリサーチレポートを要約・統合し、信用・リスク審査用のインサイトを抽出す

		る ⁸ 。
Valuation Reviewer	財務・オペレーション	金融機関独自の厳格な基準、指定された評価手法(メソドロジー)、および市場のコンパラブルデータと照らし合わせて、資産や企業のバリュエーション(価値評価)の妥当性と正確性を多角的に検証する ⁹ 。
GL Reconciler	財務・オペレーション	複数システムにまたがる総勘定元帳(General Ledger)のアカウントを照合し、不一致を特定した上で、公式な記録簿に対して純資産価値(NAV)を正確に計算・検証する ⁸ 。
Month-end Closer	財務・オペレーション	企業の月次決算プロセスにおけるクロージング・チェックリストを管理し、必要な仕訳入力の準備を行い、最終的な月次決算報告書(Month-end close reports)を生成する ² 。
Statement Auditor	財務・オペレーション	財務諸表を詳細にレビューし、外部監査に向けた準備が整っているか、記載内容に完全性と論理的な一貫性があるかを厳格に確認・監査する ¹ 。
KYC Screener	財務・オペレーション	顧客確認(Know Your Customer)手続きにおいて、エンティティのソース文書やファイルを収集・審査し、リスクが高いと判断されたエスカレーション案件をコンプライアンス部門向けにパッケージ化する ² 。

これらのエージェントの価値は、単に情報を検索・要約するだけでなく、複数のシステムを横断して自律的に意思決定のプロセスを進める能力にある。例えば、従来の投資銀行部門におけるピッチブックの作成は、アナリストが各種金融データベースから手作業でデータを抽出し、Excel上で類似企業比較モデルを構築し、その結果をPowerPointの指定フォーマットに手入力で転記するという、極めて労働集約的でミスが許されない長時間の作業であった¹⁴。しかし、「Pitch Builder」エージェントは、ターゲットリストの選定から分析の実行、そして最終的なスライド生成までのワークフロー全体を指揮し、アナリストの初期段階における膨大な負担を根本から取り除くことが期待されている⁸。

同様に、バックオフィス部門における「Month-end Closer」や「GL Reconciler」の導入は、会計担当者が直面する月末の残業常態化を劇的に解消する可能性を持つ⁹。これらのエージェントは、複数のERP(企業資源計画)システム間のデータを照合し、監査証跡を残しながら複雑な仕訳帳の作成から最終的な月次報告書の完成までを自律的に進行させる⁸。このような一連のプロセスの自動化は、単なるコスト削減を超えて、人間の専門家がより高度な戦略的判断や例外対応に時間を割くための「スループットの向上」をもたらす¹⁵。

三層構造の参照アーキテクチャと技術基盤

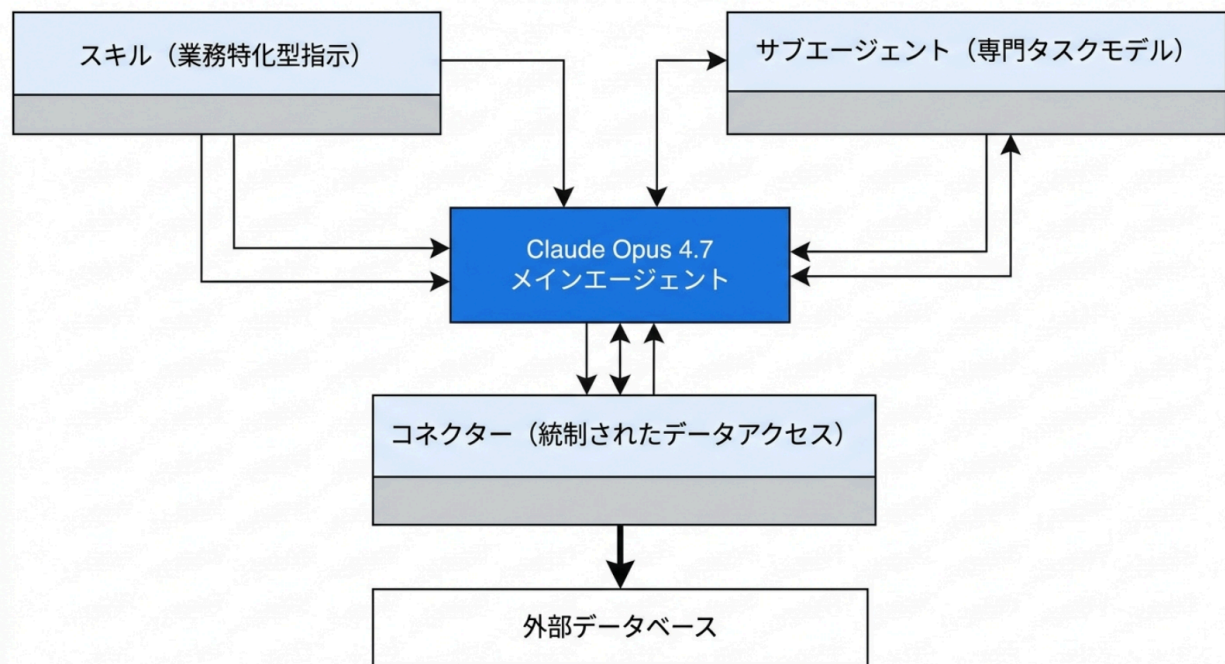
アンソロピックが提供する金融向けエージェントが、実用的なエンタープライズ・ソフトウェアとして機能する背景には、単純なプロンプトエンジニアリングの域を超えた、極めて洗練された「参照アーキテクチャ(Reference Architecture)」の存在がある²。各エージェントテンプレートは、このアーキテクチャに基づく完成されたパッケージとして出荷されるが、同時に金融機関が自社独自のモデリング規則(モデリング・コンベンション)、リスクポリシー、および社内の承認フロー(Approval flows)に合わせて柔軟にカスタマイズできるよう設計されている²。

この参照アーキテクチャは、以下の3つの主要な論理コンポーネントが緊密に統合された構造を持つ²。

1. **スキル(Skills)**: エージェントが特定のタスクを実行するために必要な、詳細な指示群とドメイン固有の専門知識(Domain knowledge)を定義する層である²。これは単なるシステムプロンプトではなく、一連のワークフローを記述したマークダウンファイルなどの形式で構成される¹⁷。例えば、財務モデリングを行うタスクにおいて、スキルは「金融プロフェッショナルとしてどのように振る舞うべきか」「構築するモデルにはどのような要素(割引率の算定根拠やターミナルバリューの計算手法など)を含めるべきか」といった金融のビジネスロジックをエージェントにエンコードする¹⁰。
2. **コネクター(Connectors)**: AIエージェントが推論を行うためには、信頼できるリアルタイムデータへの継続的なアクセスが不可欠である。コネクター層は、エージェントがタスクを実行する上で必要なデータ(外部プロバイダーのデータベース、企業内部のデータウェアハウス、コードリポジトリ、CRMシステムなど)に対する、「厳格にガバナンスされたアクセス経路(Governed access)」を提供する²。この層により、エージェントはハルシネーション(AIの事実誤認)のリスクを抑え、常に最新の一次情報に基づいた事実確認と分析を行うことが可能となる。
3. **サブエージェント(Subagents)**: 最も複雑なタスクを処理するための革新的なアプローチが、このサブエージェントの概念である。メインのエージェントが全体のワークフローを管理するオーケストレーターとして機能する一方で、特定の部分的なタスク(例: 類似企業の選定、複雑な評

価値メソッドロジーの整合性チェック、特定のデータの計算など)を処理するために、追加の Claudeモデルが動的に呼び出される²。技術的には、これらは特定のシステムプロンプトと限定されたツールへのアクセス権を与えられた、Claudeへの特化したAPIコールである¹⁷。このモジュール化された分散型推論アプローチにより、単一の巨大なプロンプトにすべてを詰め込むことで生じる文脈の喪失や推論の劣化を防ぎ、各ステップで高い精度を維持することが可能となる。

金融向けAIエージェントの参照アーキテクチャ概念図



基盤モデルをコアとし、業務特化型の指示（スキル）、統制されたデータアクセス（コネクター）、専門タスクの委譲（サブエージェント）が三位一体となって機能する設計思想。

ただし、基盤となるClaude Opus 4.7モデルの卓越した性能 (Vals AIベンチマークでの64.37%スコア) にもかかわらず、完全に無人での自律行動には依然として高いハードルが存在する事実も指摘しておく必要がある。例えば、Arcadia Labが提供するPrediction Arenaにおいて、57日間にわたりフロンティアAIエージェントに予測市場 (PolymarketおよびKalshi) での投資リターン最大化というタスクを与えた実験では、テストされたすべてのエージェントが資金を失う結果となった⁸。Claudeの初期のイテレーション (Claude 4.5) に至っては、与えられた資金の4分の1以上を喪失している⁸。このデータは、現実世界のノイズの多い市場環境において、AIが完全に独立して資金を運用するレベルには達しておらず、あくまで「特定業務の実行を支援・自動化する」スコープに限定して使用すべきであるという重要な限界を示している。

デプロイメント形態の二面性: プラグインとマネージド・エージェント

金融機関は、自社のITインフラストラクチャ、セキュリティ要件、および対象となる業務の特性(タスクの継続時間や必要な自律性のレベル)に応じて、これらのエージェントテンプレートを2つの全く異なるデプロイメント(展開)オプションで実装することができる⁹。

コパイロット型アプローチ: 「Claude Cowork」および「Claude Code」プラグイン

第一の展開方法は、既存のワークスペースである「Claude Cowork」や開発環境である「Claude Code」の内部で「プラグイン」としてエージェントを有効化するアプローチである²。このモードは、エージェントを「高度なAIコパイロット(副操縦士)」として機能させることを意図している¹⁰。

金融プロフェッショナルは、既存のデスクトップソフトウェアを使いながら、エージェントを常に傍らに置き、リアルタイムでタスクを分担する¹³。例えば、Claude Coworkに統合された「Dispatch(ディスパッチ)」機能を使用すれば、ユーザーはテキストや音声によってAIに指示を与えるだけで、自身が席を外して別の会議に参加している間も、エージェントがローカルファイルに対するモデリング作業やリサーチをバックグラウンドで継続させることができる²。アナリストがデスクに戻った頃には、完成した成果物がレビュー待ちの状態準備されているため、作業の中断を最小限に抑え、個人の生産性を劇的に向上させることが可能となる²。

自律実行基盤: 「Claude Managed Agents」プラットフォーム

第二の展開方法は、より複雑で長時間を要するワークフローを対象とした「Claude Managed Agents」としてのデプロイメントである²。プラグイン・モードが個人向けのコパイロットであるとするれば、こちらは企業向けの「AIワークフロー・エンジン」と位置づけられる¹⁰。2025年4月にパブリックベータとして立ち上げられたこのプラットフォームは、企業が独自のインフラストラクチャを構築・維持する負担を排除し、アンソロピックが提供するホスト型クラウドサービス上でエージェントを安全に自律稼働させるための包括的な環境を提供する²⁰。

金融機関のコンプライアンス要件を満たすため、このプラットフォームは以下のような極めて堅牢なセキュリティおよび運用メカニズムを備えている²³。

- 長期実行セッションとメモリ管理: エージェントは数時間に及ぶディールプロセスの処理や、人間の介入なしに行われる夜間のバッチ処理(例: 月末の総勘定元帳の大量の照合など)を自律的に継続できる⁹。また、ファイルシステムベースの記憶領域(Memory)を通じて、セッション間で知識を保持し、過去の文脈を踏まえた推論を継続することが可能である²⁴。
- 隔離された実行環境(サンドボックス)と権限管理: 独自のサイロ化されたインフラストラクチャ(サンドボックス)内で実行されるため、他社や他システムへのデータ漏洩リスクを遮断する⁸。システムリソースへのアクセスは、ツールごとの詳細な権限設定(per-tool permissions)によって厳密に制御される⁹。
- 認証情報ボルト(Managed Credential Vaults): 外部データベースやAPIにアクセスするため

に必要な機密のパスワードやトークンは、安全に暗号化されたボルト内に一元管理される⁹。開発者がソースコード内に直接認証情報をハードコードするリスクを排除する。

- 完全な監査ログ (Audit Logs): これが金融機関にとって最も重要な機能である。Claude Consoleを通じて、コンプライアンス部門やエンジニアリングチームは、エージェントが実行した「すべてのツール呼び出し (APIコール)」「取得したデータソース」「下した判断のプロセス」を事後的に完全にトレース (追跡) することができる⁹。この機能は、後述する規制当局からの監査要求に耐えるシステム構築に不可欠である。

オープンソースの非管理型エージェントフレームワーク (例: OpenClawなど) を利用する際のリスクと比較して、アンソロピックは自社のプラットフォーム内でインフラストラクチャからセキュリティ統制までをエンドツーエンドで管理する方針を明確に打ち出しており、これを「安定した抽象化層の提供 (オペレーティングシステムがハードウェアを仮想化したのと同じアプローチ)」であると主張している²⁰。

Microsoft 365およびデータエコシステムとのシームレスな統合

AIツールがエンタープライズの現場に普及する上で最大の障壁となってきたのは、既存の使い慣れた業務アプリケーションや、企業が多額のコストを投じて構築してきた社内システムとの「断絶」であった。AIを利用するために別のブラウザタブを開き、データを手動でコピー & ペーストしなければならない環境では、真の生産性向上は望めない。アンソロピックは今回の金融エージェントの展開において、ユーザーインターフェースとデータアクセスの双方から、この摩擦を解消する強力な統合ソリューションを実装した。

Microsoft 365環境における「コンテキストの自動連携」

アンソロピックは、金融プロフェッショナルが労働時間の大部分を費やすMicrosoft 365スイート (Excel、PowerPoint、Word、および間もなく提供開始されるOutlook) 向けの専用アドイン (Claude add-ins) を一般公開した²。この連携の最大の強みは、単一のアプリケーション内での自動化にとどまらず、複数のプラットフォーム間で「コンテキスト (文脈や前提条件) が自動的に引き継がれる」という画期的なアーキテクチャにある²。

具体的なワークフローを例に挙げると、アナリストがまず「Claude for Excel」を使用して、SECの提出書類 (Filings) や外部データフィードから対象企業の財務モデル (例えばDCFモデルなど) を構築する¹³。Claudeはサイドバーから直接Excelワークブックを読み取り、分析し、変更を加えることができる²⁶。さらに、複数のリンクされたワークブックにまたがる複雑な数式を監査 (デバッグ) し、前提条件を変えた感度分析 (Sensitivity analyses) を実行する¹³。

次に、このアナリストが分析結果をクライアントに報告するためにPowerPointを開いたとする。ここでClaudeは、先ほどExcelで行ったモデリングの背景、構造、および導き出されたインサイトをすでに「記憶」している。そのため、ユーザーが分析内容をゼロから再説明することなく、Claudeは即座にプレゼンテーション資料 (ピッチデッキ) のドラフトを作成する²。さらに、基となるExcelの数値や前提条件が変更された場合、PowerPoint上のスライドもそれに連動して自動的に更新される仕組みが提供されている²。Wordにおいては、企業が独自に定める厳格なフォーマット (テンプレート) に準拠した形でクレジット・メモや監査報告書を編集し²、Outlookでは膨大な受信トレイの優先順位付け (トリアー

ジ)、ミーティングの調整、および文脈に沿った返信の起案までを統合的に処理する設計となっている¹³。

このように、「Vibe working(バイブワーキング)」や「Agent Mode」と呼ばれる人間とAIの新たな協働パターンを通じて、AIは単なるテキストジェネレーターから、ネイティブに「Excelを話す(speak Excel)」熟練したモデリング専門家のような存在へと昇華している²⁷。さらにセキュリティ面においても、AnthropicはMicrosoftの「サブプロセッサ(厳重に監督される下請け業者)」として機能し、Microsoft 365のエンタープライズグレードの契約(Data Protection Addendum等)に準拠してデータを処理するため、企業はデータの流出を懸念することなくAIを活用できる²⁸。

Model Context Protocol (MCP)による金融情報インフラの接続

AIエージェントの推論精度は、最終的には入力される情報の質と鮮度に完全に依存する。金融市場のように一分一秒で状況が変化し、情報の正確性がそのまま巨額の損益に直結する環境においては、時代遅れの学習データに基づくAIの回答(ハルシネーション)は致命的なリスクとなる。この問題を根本的に解決するため、アンソロピックは「Model Context Protocol(MCP)」というオープン標準アーキテクチャを活用し、金融データプロバイダーとのエコシステムを急速に拡大している²。

MCPは、大規模言語モデルと外部のデータソース、エンタープライズツール、およびAPIとの間に、安全かつ双方向の接続を構築するための標準プロトコルである³⁰。これはAIアプリケーションにとっての「USB-Cポート」のような役割を果たし、モデルごとに独自のカスタム統合を開発する手間を省き、AIがリアルタイムで権威ある情報を取得するための構造化された経路を提供する²⁹。

このMCPエコシステムの中核として発表されたのが、世界三大格付け機関の一つであるMoody's Corporationとの戦略的提携による「Moody's Agentic Solutions (MAS)」の統合である³²。この専用のMCPアプリケーションを通じて、Claudeの環境(Claude Desktop、Claude.ai、Claude Enterprise)から、Moody'sが保有する独自の信用格付けデータ、6億社以上の企業をカバーする包括的なエンティティ・インテリジェンス、およびリスク評価のための分析フレームワークに直接アクセスが可能となる⁹。これにより、金融機関の信用分析チームは、メモの生成、ピア比較、スコアカード評価といった業務を、Moody'sの信頼性の高いデータ(decision-grade risk intelligence)に裏付けられた形で、直接Claude環境内でインタラクティブなレポートとして出力できるようになる²⁹。また、コンプライアンスチームは、所有構造のマッピング、有害メディア(アドバースメディア)のスクリーニング、および制裁対象チェックを、プロトコルレベルで統合されたセキュアな環境で高速に処理することが可能となる³²。

さらにアンソロピックは、「Anthropic financial services marketplace(金融サービス・マーケットプレイス)」を通じて、Moody's以外の多数の主要な金融データプロバイダーとの専用「コネクタ」も提供している⁹。既存の巨大プラットフォームであるFactSet、S&P Capital IQ、MSCI、PitchBook、Morningstar、Chronograph、LSEG(ロンドン証券取引所グループ)、Daloopaなどに加え、今回の発表で以下のプロバイダーとの新たなパートナーシップが追加された²。

- **Dun & Bradstreet:** 世界基準の検証済み企業ID(Business identity)を提供し、記録システムへの接続を支援する²。
- **Fiscal AI:** 公開株式に関するリアルタイムのファンダメンタルズ指標を拡張し、より深い分析とベンチマーキングを可能にする²。

- **Financial Modeling Prep:** 株式、ETF、暗号資産、外国為替、コモディティにわたるリアルタイムの価格クオート、ファンダメンタルズ、財務諸表、SEC提出書類、および決算トランスクリプトを提供する²。
- **Guidepoint:** コンプライアンス審査済みの10万件以上の専門家インタビュー記録(トランスクリプト)を検索し、一次情報ソースにリンクされた逐語的な抜粋を提供する²。
- その他のプロバイダー: IBISWorld(産業別財務比率およびリスクスコア)やVerisk(保険引受およびリスクデータ)なども統合対象となっている⁹。

これらの広範なデータ接続機能とMCPアプリケーションの統合により、エージェントは常に最新の市場データと信頼性の高い一次情報に基づいた推論を実行し、その出力を監査可能なものとするのが可能となっている。

ウォール街の巨大資本との提携と「FDE」依存という新たなパラダイム

アンソロピックの金融業界に対する影響力は、単なるツールの提供にとどまらない。同社はウォール街の巨大金融資本と深く結びつき、エンタープライズAIの導入モデルそのものを根本から変容させようとしている。

巨大金融機関との戦略的合併事業と投資規模

今回の10種類のエージェントの発表に先立ち、アンソロピックは金融業界との結びつきを決定的なものとする巨大な動きを見せた。同社は、世界最大級の資産運用会社であるBlackstone Inc.、投資銀行の雄であるGoldman Sachs Group Inc.をはじめとするウォール街の重鎮企業群と連携し、15億ドル(約2,300億円)規模の新たなジョイントベンチャー(合併事業)を立ち上げることを発表した⁵。この提携は、自社のAIソフトウェアをより多くの企業に展開・販売するための強力な販売チャネルと資本基盤を確立するものである⁵。

特に注目すべきは、総資産4.4兆ドルを誇る世界最大の金融機関の一つ、JPMorgan Chase & Co.の動向である。同行はテクノロジー関連予算として年間180億ドル以上を計上しており、AIや機械学習の分野に巨額の資金を投じている(Evident AI Indexの銀行部門AI成熟度ランキングでトップに位置する)³⁶。JPMorgan Chaseはすでに、バックオフィスの自動化、クライアントサービス、およびリスク軽減の分野で450以上のAIユースケースを本番環境で稼働させており、2026年までにその数を1,000に拡大する計画である³⁶。同行は独自のLLM Suiteを展開して従業員の生産性を高めるとともに、「OmniAI」プラットフォームを通じて取引パターンの分析とリアルタイムの不正検知を行い、損失の削減とセキュリティの向上を図っている³⁶。さらに、Goldman Sachsとともにアンソロピックの次世代モデル「Mythos」をテストする「Project Glasswing」という枠組みにも参加しており、AIのサイバーセキュリティリスクの評価に共同で取り組んでいる³⁷。

ソフトウェアから「プロフェッショナルサービス」への回帰:FDEの台頭

一方で、こうした巨大な投資とAIの導入推進の裏で、エンタープライズITの世界における深刻なパラダイムの矛盾が露呈し始めている。初期の生成AIやエージェントAIのマーケティング・ナラティブは、「高度なAIツールを導入すれば、企業はより少ない人員で多くの業務を処理でき、労働コストを

削減できる」というものであった。しかし、金融機関のような高度に規制された複雑なワークフロー環境にAIを適合させようとした結果、業界の専門家は「この労働力削減のストーリーは現実の壁に直面し、生き残ることはできなかった」と指摘している³⁸。

逆説的ではあるが、巨大AI企業が特定産業のプロセスにエージェントを統合するための解決策は、「より優れたAIモデル」を提供することではなく、「より多くの人間のエンジニア」を投入することであった³⁸。これが、エンタープライズITにおける新たなボトルネックとして浮上している「Forward-Deployed Engineers(現場展開エンジニア:FDEs)」への過度な依存問題である³⁸。

この事象を端的に示しているのが、金融テクノロジーベンダーのFIS(Fidelity National Information Services)との事例である。FISは数千の金融機関の資金移動の中心を担う企業であり、アンソロピックと協力して、銀行向けの「Financial Crimes AI Agent(金融犯罪AIエージェント)」の共同設計を開始した²。現在、国連の推計によれば年間2兆ドルもの違法資金がグローバル金融システムを通過しており、米国の金融機関だけでもアンチ・マネーロンダリング(AML)業務に年間350億~400億ドルを費やしている³⁹。新しいAIエージェントは、FISの統制されたインフラストラクチャ内で、銀行のコアシステムを横断して証拠パッケージを自動的に収集し、既知の犯罪類型に対してアクティビティを評価することで、AMLの調査時間を「数時間から数分」へと劇的に圧縮することを目指している³⁸。Bank of Montreal(BMO)やAmalgamated Bankがこのエージェントを導入する最初の企業として名を連ねている³⁸。

しかし、この画期的なプロジェクトを実現するために、アンソロピックは自社の「Applied AI(応用AI)」チームと多数のFDEsをFISの内部に「埋め込む(embedded)」という手法をとらざるを得なかった³⁸。つまり、「フロンティアAIはまだプラグアンドプレイのプロダクト(製品)ではなく、高額なプロフェッショナルサービスのエンゲージメント(契約)である」という事実が露呈したのである³⁸。

「人質(Hostage)」化のリスクとAIガバナンスの課題

企業のCIO(最高情報責任者)は現在、自社のデータ品質の低さ(AIが読み取れる形にクレンジングされていないこと)やAIモデルの複雑性を補うため、AIベンダーから派遣される高額なFDEチームのサービス費用を負担せざるを得ない状況に追い込まれている³⁸。FISのように数多くの顧客基盤を持つベンダーであれば、FDEのコストを複数の銀行に分散(償却)させることができるが、個別の企業がAIベンダーと直接契約を結ぶ場合、その費用は法外なものとなる³⁸。

ITコンサルティング業界のアナリストは、このFDE主導の導入モデルに対して複数の深刻なリスクを警告している。

1. システム放棄の危機: FDEの法外なコストと、ベンダーチームが撤退した後にシステムを保守・進化させるための社内スキルの欠如により、2028年までに企業の約70%がエージェントイックAIソリューションの導入プロジェクトを放棄せざるを得なくなるという予測が存在する³⁸。
2. ベンダーロックインと利益相反: 企業がAIワークフローを監視、運用、または修正する能力を内製化できない場合、そのプロジェクトは企業の真の能力(Capability)ではなく、単なる外部への「依存(Dependency)」となり、企業は終わりのないコンサルティング費用を支払い続ける「人質」となる³⁸。さらに、AIベンダーは自社のモデルの複雑性を解消した対価として報酬を得る立場にあるため、あえて継続的で高収益なFDEサポートを必要とするようにプラットフォームを設計するという「利益相反(Conflict of interest)」の疑念すら指摘されている³⁸。

3. 意思決定権限 (**Decision Rights**) の摩擦: 金融機関には何十年にもわたって構築されてきた厳格な意思決定権限のフレームワークが存在する。外部のエンジニアが構築したAIエージェントに「どの決定を下す権限を与えるか」を定義することは、監査ログを残すこと以上に困難な組織的課題である³⁸。また、自動化の対象となるプロセスに精通した社内の専門家(現場の従業員)は、自分たちのノウハウがAIに奪われることを恐れ、現実の複雑なエッジケースを隠して表面的な公式プロセスだけをFDEIに伝えるという「サボタージュ」を行うインセンティブがあり、これが結果的にエージェントの失敗を招く原因となっている³⁸。

競合環境の激化: Perplexity「Computer for Professional Finance」との激突

金融業務の自動化という巨大なブルーオーシャンを巡る競争は、アンソロピックの単独舞台ではない。アンソロピックによる10種の金融エージェントの発表と時を同じくして、AI検索エンジンの新興企業として急成長を遂げているPerplexity(パープレキシティ)もまた、金融プロフェッショナルに向けた独自のプラットフォーム「Computer for Professional Finance」を矢継ぎ早に発表した¹¹。この動きは、ウォール街におけるAIの覇権争いが、異なるアプローチを持つベンダー同士の正面衝突へと発展したことを示している。

Perplexityのシステムは、アンソロピックとは全く異なる設計思想に基づいている。Perplexity Computerは、隔離されたマイクロVM(仮想マシン)内で19種類もの異なるAIモデルを並行してオーケストレーション(統合管理)するアーキテクチャを採用している⁴¹。ユーザーが自然言語でプロンプト(The AGENT frameworkなどの効果的な記述法を使用)を入力すると、システムはPitchBook、Morningstar、Daloopa、Carbon Arcといったライセンスされた専門的な金融データセットに接続し、35種類以上の高度な金融ワークフローをサポートする⁴⁰。この過程で、AIは膨大なデータを集約し、インライン引用(Inline citations)を付与してどのソースからどの図表やデータが生成されたかを明確に示しながら、アナリストが求める詳細なティアシート(企業概要資料)やリサーチメモを自動生成する⁴⁰。

特筆すべきは、その圧倒的な「価格破壊」とターゲットとする市場の明確さである。PerplexityのCEOであるAravind Srinivas氏が「汎用デジタルワーカー (general-purpose digital worker)」と表現するこのシステムは、月額わずか200ドルというサブスクリプション価格で提供されている⁴¹。金融業界のアナリストがX(旧Twitter)上で実証したように、この低価格なAIエージェントを使用することで、金融情報端末の絶対的王者であり、1シートあたり年間約3万ドルという巨額のライセンス料を徴収する「Bloomberg Terminal(ブルームバーグ端末)」の機能(例えばNVIDIA株式の高度な分析など)を実質的に再現・代替することが可能となってしまった⁴¹。このコストパフォーマンスのギャップは、金融機関のIT調達戦略に多大な影響を与えるものである。

アンソロピックとPerplexityのアプローチには明確な違いがある。Perplexityが「複数のモデルを駆使した膨大な情報の検索・集約と、高額な既存情報端末インターフェースの代替」に焦点を当てているのに対し、アンソロピックの金融エージェントは「Excel上での複雑なDCFモデルの構築、月末のERPシステム間の帳簿の消し込み、コンプライアンス部門向けのKYCファイル審査」といった、金融機関内部の「業務プロセス(ワークフロー)そのものの自律的な実行とファイル作成」に深く入り込んでいく。金融機関のCIOや業務部門は今後、情報検索・集約に特化したAIと、社内プロセス実行型のAI

をどのように組み合わせ、あるいは取捨選択し、限られたIT予算を配分していくかという、高度なアーキテクチャ上の決断を迫られることになる。

金融市場および労働市場への波及効果

これらの高度なエージェントAIの出現は、単に企業の業務効率化にとどまらず、株式市場のバリュエーションや労働市場の構造にまで深刻な波及効果をもたらしている。

アナリスト職の代替懸念と「SaaSocalypse」の再来リスク

アンソロピックの発表は、金融業界における雇用不安を一気に顕在化させた。特に懸念されているのが、投資銀行や資産運用会社におけるエントリーレベル(入社初期)職への影響である⁵。SNS上では、「アンソロピックは、ウォール街のすべての銀行における入社1年目のアナリストの仕事を自動化してしまった」という投稿が拡散し、これまで人間が長時間かけて行っていたピッチブックの作成や財務モデルの初期構築といった業務が、AIによって完全に代替されるという現実的な脅威が広く認識されることとなった¹⁴。

さらに、この事象は株式市場におけるソフトウェアセクター全体のバリュエーションに暗い影を落としている。市場関係者の記憶に新しいのが、2026年2月にアンソロピックが「Claude Cowork」を初期リリースした際に起きた現象である。このツールが様々な業務アプリの機能を代替し得るという見方が広がった結果、単一機能を提供する既存のSaaS(Software as a Service)企業群の時価総額がわずか1日で2,850億ドルも消失するという、市場では「SaaSocalypse(SaaSの終末)」と形容される大暴落が発生した¹⁴。

今回の10種類の金融特化型エージェントのリリースは、このSaaSocalypseの「第2波」を引き起こすリスクとして警戒されている¹⁴。一部の分析では、InfosysやTCS(Tata Consultancy Services)といった巨大ITアウトソーシング企業や、金融業界に特化した業務ソフトウェアを提供するベンダーの事業モデルがAIエージェントの機能と直接競合することになり、これらの企業の株価に再びネガティブな影響を及ぼす可能性が指摘されている⁵。金融サービスは、アンソロピックにとってテクノロジー分野に次ぐ2番目に大きなエンタープライズ収益源であると公言されており、AIベンダーがモデルプロバイダーから特定産業のプラットフォーマーへと変貌する過程で、既存のサービスプロバイダーは生存競争に直面している⁵。

日本市場における反応とハイテク株への影響

このグローバルな波は、日本の金融市場にも即座に波及した。2026年5月6日(水)、アンソロピックによる金融向けAIエージェントの発表と、自社のAIを既存のソフトウェア(Microsoft 365など)とシームレスに連携させる機能の拡充が報じられたことを受け、東京株式市場は敏感に反応した⁴³。

AI技術の実用化が一段と進むとの期待から、これまで売られていたソフトウェア関連を中心とするハイテク株に買い戻しが入り、同日の日経平均株価は一時前日比900円以上値上がりした⁴³。取引時間中としては約2週間ぶり(5月12日以来)となる5万8000円台という最高値を更新する力強い動きを見せた⁴³。市場関係者は、この技術革新が企業の生産性を押し上げると好感する一方で、米国のトランプ大統領が行う一般教書演説(政策を巡る不透明感の払拭が焦点)とタイミングが重なったことで、内容次第では相場がさらに大きく動く可能性があるとして分析し、AI関連銘柄の動向を注視している

規制当局の監視と「Human-in-the-loop」原則によるガバナンス

高度な推論能力と自律性を持つエージェントAIが、巨額の資金が動く金融システムの中枢に深く組み込まれるに伴い、各国の金融規制当局は監視の目をかけていないレベルにまで引き上げている。アンソロピックのエージェント導入において、最終的な成否を分ける最大の関門は、技術的な性能限界以上に、金融業界特有の厳格な法規制とガバナンス基準への適合能力にある。

FINRAおよびSECによる規制指針とサイバーセキュリティの懸念

2026年、米国の金融取引業規制機構(FINRA)は年次規制監視レポート(Annual Regulatory Oversight Report)において、生成AIに関する新たな項目を追加し、明確な指針を示した⁷。FINRAの基本スタンスは、その規則が「技術的に中立(technologically neutral)」に設計されているという点にある。すなわち、金融機関(メンバーファーム)が業務プロセスにおいて生成AIや類似の高度な技術を利用する場合であっても、既存の連邦証券法およびFINRA規則の適用を免れることはなく、他のあらゆる技術ツールを使用する場合と全く同じコンプライアンス要件が厳格に適用されることが再確認された⁷。

FINRAは、企業が生成AIツールを事業環境内でテストおよび展開する前に、適用される規制をどのように遵守するかを慎重に検討することが極めて重要であると警告している⁷。例えば、FINRA Rule 3110(監督体制に関する規則)は、会員企業に対して自社のビジネスモデルに合わせた合理的に設計された監督(Supervision)システムを構築・維持する義務を課している。もし金融機関が、コンプライアンス審査(KYCなど)や取引の監視システムの一部としてAIエージェントに依存する場合、そのAIモデルの「完全性(integrity)」「信頼性(reliability)」、および「正確性(accuracy)」を恒常的に担保するためのポリシーと厳密な手順を確立しなければならない⁷。FINRAの調査によれば、メンバーファームにおける生成AIの最大のユースケースは「要約と情報の抽出(Summarization and Information Extraction)」であり、膨大な非構造化文書からキー情報を抽出するプロセスにおいて、AIの判断の妥当性が問われている⁷。さらに同レポートでは、市場操作(manipulative trading)、フロントランニング、非真正取引の防止と検出といった長年の課題に対しても、AIを活用した監視体制の強化と、AI自体が不正を引き起こさないための統制に言及している⁴⁴。

これと並行して、米国証券取引委員会(SEC)、財務省、および連邦準備制度理事会(FRB)といった主要な連邦規制当局も、AIモデルの高度化がもたらすサイバーセキュリティやデータプライバシーの脅威に対して強い警戒感を表明している⁴⁵。2026年4月、SECは米国の株式・オプション市場のすべての取引活動を追跡・監視するための巨大なデータベースである「Consolidated Audit Trail(CAT)」の包括的なレビューに関するコンセプト・リリースを発行し、一般からのパブリックコメントを求めた⁴⁵。この動きは、CATや関連データソースの「サイバーセキュリティとデータプライバシー」に対する懸念や、「プライバシー・機密性の保護、市民的自由の保障、そして規制上の必要性」という相反する要素の適切なバランスを模索するものである⁴⁵。SECのHester Peirce委員は、悪意のある規制当局の内部関係者がこのデータにアクセスして個人をストーキングするリスクさえ指摘しており、システム統合のリスク管理専門家は、SECがCATを取り巻くサイバーセキュリティおよびサードパーティ・リスクに

ついて、より広範で厳格な監査基準を導入する兆候であると分析している⁴⁵。

「憲法的AI」と「Human-in-the-loop」原則による統制

このような極めて厳格かつリスクに敏感な規制環境下において、アンソロピックは自社の金融エージェントがコンプライアンスの要求事項を完全に満たすよう、システム設計の根幹に複数の安全装置を組み込んでいる⁴⁶。金融機関が導入にあたって最優先する「ガバナンス、データセキュリティ、透明性(Clarity)」の要求に応えるため、同社は独自の「Constitutional AI(憲法的AI:倫理原則に基づきモデル自身が判断を修正する仕組み)」フレームワークを基盤とし、それに加えて包括的なロギング機能を提供している⁴⁶。

技術的アーキテクチャの観点から最も重要な設計原則は、「Human-in-the-loop(人間の介入・監督)」の徹底である。10種類のエージェントが、どれほど高度な分析、モデリング、資料作成を自律的に進行させたとしても、その最終的な出力結果がクライアントに送信されたり、規制当局への公式ファイル(提出書類)として記録されたり、あるいは実際の資金移動や取引アクションが実行されたりする前には、必ず人間(シニアアナリストやコンプライアンス担当責任者)による「承認ループ(Review-and-approval loop)」を強制的に経由するようシステムの的にロックされている¹⁰。これは、AIが最終決定権を持つこと(完全自律)を現行の法規制が容認していないためであり、業界全体が人間のシニアレベルの監視を維持しながら徐々に自律性を高めていく「Staircase of autonomy(自律性の階段)」のアプローチを採用していることを示している⁴⁶。

さらに、前述した「Claude Managed Agents」プラットフォームは、まさにこの規制監査と説明責任(Accountability)に対応するために設計された専用インフラストラクチャである¹³。システムに設定されたツールごとの詳細な権限管理(Granular permissions)、暗号化された認証情報ボルト(Credential vaults)による安全なアクセス管理に加え、AIが特定の結論に至るまでに「どのソースデータにアクセスし」「どのようなプロセスで推論を行い」「どのツールを呼び出したか」というすべての挙動が、Claude Console上の監査ログ(Audit logs)として永続的に記録・保存される¹⁰。アンソロピックの金融サービス責任者であるJonathan Pelosi氏がFISとの協業に際して強調したように、「エージェントが到達したすべての結論はそのソースデータに遡ってリンクされており、すべての最終決定権は人間の調査担当者に委ねられている」という状態を技術的に担保している³⁹。これにより、万が一不正取引やコンプライアンス違反の疑義が生じた場合でも、金融機関は規制当局(SECやFINRAなど)に対して完全な追跡可能性(Traceability)と監査可能性(Auditability)を証明し、説明責任を果たすことが可能となるのである³⁸。

結論: 自律性と統制の最適な均衡の模索

アンソロピックが2026年5月に発表した10種類の金融業務向けAIエージェントは、単なるソフトウェア機能のアップデートという枠組みを遥かに超え、金融サービス業界の生産性、コスト構造、および労働市場のあり方に不可逆的なパラダイムシフトをもたらすものである。Vals AIベンチマークでトップスコアを叩き出すClaude Opus 4.7の高い推論能力、既存のMicrosoft 365環境へのシームレスかつコンテキストを維持した統合、Model Context Protocol(MCP)を介した広大な金融データエコシステム(Moody's、FactSet、Dun & Bradstreetなど)との接続、そしてFINRAやSECの厳格な規制要件に耐える監査・ロギングインフラストラクチャの構築は、エージェントックAIが長きにわたった「実験・評価段階」を終え、巨大資本の基幹システムに組み込まれる本格的な「本番稼働段階」

Production-ready) 」へと突入したことを明確に証明している。

しかし、この革新的な技術の全社的な展開は、決して平坦な道のりではない。企業は、現場展開エンジニア (FDEs) への過度な依存によるエンタープライズITコスト構造のプロフェッショナルサービスへの回帰とベンダーロックインのリスク、自社内のデータクレンジングとガバナンス体制の抜本的な再構築、Perplexityのような破壊的価格設定を行う競合プラットフォームとのアーキテクチャの選定、さらにはSaaS Apocalypse再来の懸念に象徴される既存IT投資との重複調整といった、極めて困難かつ複雑な経営課題に直面することになる。

さらに、労働市場においては、ピッチブック作成や月次決算の消し込みといった、これまで若手人材が下積みとして経験してきたタスクが急速に自動化されることで、金融機関は「ジュニアアナリストの業務が消失する中で、次世代の意思決定を担うシニア人材をいかにして育成するか」という根本的な人材パイプラインの再定義を迫られている。

今後の金融業界における最大の焦点は、金融機関がいかにしてAIの持つ「自律性による圧倒的なスループット向上」と、コンプライアンスが要求する「厳格な統制(ガバナンス)」のバランスを組織レベルで最適化できるかという点にかかっている。人間による最終承認(Human-in-the-loop)の原則を不可侵の防波堤として維持しつつ、業務プロセスのどこまでを安全かつ効率的にAIエージェントに委譲し、人間をより高度な戦略的・例外的な判断に集中させることができるか。この検証と実装のプロセスを最速で成し遂げた企業が、これからの数年間におけるグローバル金融市場の競争優位性を決定づけることになる。アンソロピックの提供するAIプラットフォームは、その歴史的変革の最前線において、業界の標準と働き方の未来を根本から再定義しようとしている。

引用文献

1. Anthropic Unveils Suite of 10 Specialized AI Agents Targeting Financial Services Industry, 5月 7, 2026にアクセス、<https://www.mexc.com/news/1072516>
2. Agents for financial services \ Anthropic, 5月 7, 2026にアクセス、<https://www.anthropic.com/news/finance-agents>
3. Anthropic unveils AI agents to field financial services tasks - YouTube, 5月 7, 2026にアクセス、<https://www.youtube.com/shorts/8ufTSVz4iYM>
4. Anthropic Launches Ten AI Agents for Banking and Asset Management Professionals, 5月 7, 2026にアクセス、<https://www.fundsociety.com/en/news/business/anthropic-launches-ten-ai-agents-for-banking-and-asset-management-professionals/>
5. Anthropic Finance Agents Pose Threat to Established Service Providers, 5月 7, 2026にアクセス、<https://aibusiness.com/agent-ai/anthropic-finance-agents-threaten-established-service-providers>
6. A practical deployment guide - Anthropic, 5月 7, 2026にアクセス、<https://www-cdn.anthropic.com/files/4zrzovbb/website/34783bca828d7fa331f515ced26f1c9232151b2c.pdf>
7. GenAI: Continuing and Emerging Trends | FINRA.org, 5月 7, 2026にアクセス、<https://www.finra.org/rules-guidance/guidance/reports/2026-finra-annual-regulatory-oversight-report-gen-ai>
8. First financial services agents from Anthropic launched - FStech, 5月 7, 2026にアク

- セス、
https://www.fstech.co.uk/fst/First_financial_services_agents_from_Anthropic_launched.php
9. Financial Modeling with Integrated Claude Agents - Viral Methods, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://metodoviral.com/en/news/financial-modeling-with-integrated-claude-agents/>
 10. Anthropic's New AI Agents for Finance: What They Do, Why They Matter, and How They Actually Work | by Tort Mario - Medium, 5月 7, 2026にアクセス、
https://medium.com/@tort_mario/anthropics-new-ai-agents-for-finance-what-they-do-why-they-matter-and-how-they-actually-work-5379502317fd
 11. Anthropic and Perplexity Race to Automate Finance With AI Tools, Shake up Financial Stocks, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.trendingtopics.eu/anthropic-and-perplexity-race-to-automate-finance-with-ai-tools-shake-up-financial-stocks/>
 12. Anthropic Claude launches 10 AI agents for banks: Will AI replace finance jobs?, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.financialexpress.com/life/technology-anthropic-claude-launches-10-ai-agents-for-banks-will-ai-replace-finance-jobs-4233140/>
 13. Anthropic Launches Financial Services Agent Templates, Expands Insurance Data Access, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://programbusiness.com/news/anthropic-launches-financial-services-agent-templates-expands-insurance-data-access/>
 14. Anthropic creates 10 new AI agents for bank and finance work, will there be bloodbath on stock market again?, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.indiatoday.in/technology/news/story/anthropic-creates-10-new-ai-agents-for-bank-and-finance-work-will-there-be-bloodbath-on-stock-market-again-2907312-2026-05-06>
 15. AI Agents for B2B Productivity: Anthropic's 2026 Vision - IntuitionLabs, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://intuitionlabs.ai/pdfs/ai-agents-for-b2b-productivity-anthropic-s-2026-vision.pdf>
 16. Anthropic launches private-label financial AI 'agents' on same day as Schwab enters artificial intelligence fray -- and its shares rise with LPL, Raymond James | RIABiz, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://riabiz.com/a/2026/5/6/anthropic-launches-private-label-financial-ai-agents-on-same-day-as-schwab-enters-artificial-intelligence-fray-and-its-shares-rise-with-lpl-raymond-james>
 17. Anthropic unleashes finance agents for Claude - The Register, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.theregister.com/software/2026/05/05/anthropic-unleashes-finance-agents-for-claude/5225868>
 18. Anthropic Release Notes - May 2026 Latest Updates - Releasebot, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://releasebot.io/updates/anthropic>
 19. Anthropic rolls out financial services agents as arms race with OpenAI heats up, 5

- 月 7, 2026にアクセス、
<https://www.investmentnews.com/fintech/anthropic-rolls-out-financial-services-agents-as-arms-race-with-openai-heats-up/266445>
20. Anthropic Just Shipped the Layer That's Already Going to Zero - Towards AI, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://pub.towardsai.net/anthropic-just-shipped-the-layer-thats-already-going-to-zero-2a623f3f7eb9>
 21. Anthropic Managed Agents: What It Takes to Build Agent-as-a-Service - DEV Community, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://dev.to/chen115y/when-the-model-company-builds-the-factory-what-it-takes-to-build-agent-as-a-service-51g5>
 22. Anthropic Reports 61% Of Firms Use Or Assess Generative AI, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://quantumzeitgeist.com/anthropic-firms-use-assess-generative/>
 23. OpenClaw AI Agent is impressive & an enterprise security disaster - Codingscape, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://codingscape.com/blog/openclaw-ai-agent-is-impressive-an-enterprise-security-disaster>
 24. Claude Managed Agents get Memory, persistent learning across sessions - i-SCOOP, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.i-scoop.eu/claude-managed-agents-memory/>
 25. What Is Anthropic's Managed Agents? How to Deploy AI Agents Without Infrastructure, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.mindstudio.ai/blog/anthropic-managed-agents-deploy-without-infrastructure>
 26. Advancing Claude for Financial Services - Anthropic, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.anthropic.com/news/advancing-claude-for-financial-services>
 27. Vibe working: Introducing Agent Mode and Office Agent in Microsoft 365 Copilot, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.microsoft.com/en-us/microsoft-365/blog/2025/09/29/vibe-working-introducing-agent-mode-and-office-agent-in-microsoft-365-copilot/>
 28. Claude Comes Inside the Microsoft 365 Boundary - Synozur, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.synozur.com/post/claude-comes-inside-the-microsoft-365-boundary>
 29. Model Context Protocol - Moody's, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.moody's.com/web/en/us/genai/model-context-protocol.html>
 30. What is the Model Context Protocol (MCP)?, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://modelcontextprotocol.io/docs/getting-started/intro>
 31. Introducing the Model Context Protocol - Anthropic, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.anthropic.com/news/model-context-protocol>
 32. Moody's brings credit and compliance workflows directly into Anthropic's Claude, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.moody's.com/web/en/us/media-relations/press-releases/moodys-brings-credit-and-compliance-workflows-directly-into-anthropics-claude.html>
 33. Demystifying MCPs: the emerging common language of enterprise AI - Moody's,

- 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.moodys.com/web/en/us/creditview/blog/demystifying-mcp.html>
34. Program Business | Find Insurance Markets, Get Quotes, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://programbusiness.com/>
 35. Anthropic Just Released New AI Agents to Field Financial Services Tasks Aimed at Banking, Asset management and Fintech - the new AI agents can draft pitch decks, review financial statements etc. : r/FinancialCareers - Reddit, 5月 7, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/FinancialCareers/comments/1t4z93d/anthropic_just_released_new_ai_agents_to_field/
 36. Artificial Intelligence at JPMorgan Chase, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://emerj.com/artificial-intelligence-at-jpmorgan-chase/>
 37. JPMorgan Chase, Goldman Sachs on Anthropic's Mythos, AI cyber risks, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.constellationr.com/insights/news/jpmorgan-chase-goldman-sachs-anthropics-mythos-ai-cyber-risks>
 38. Anthropic's financial agents expose forward-deployed engineers as ..., 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.cio.com/article/4167981/anthropics-financial-agents-expose-forward-deployed-engineers-as-new-ai-limiting-factor.html>
 39. FIS Brings Agentic AI to Banking with Anthropic, Starting with Financial Crimes, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.fisglobal.com/about-us/media-room/press-release/2026/fis-brings-a-gentic-ai-to-banking-with-anthropic-starting-with-financial-crimes>
 40. AI News - Future Tools, 5月 7, 2026にアクセス、 <https://futuretools.io/news>
 41. Perplexity Computer: The \$200 AI Agent That Rewrites the Bloomberg Terminal (2026), 5月 7, 2026にアクセス、
<https://pasqualepillitteri.it/en/news/1983/perplexity-computer-bloomberg-terminal-finance-2026>
 42. Anthropic and Perplexity are racing to automate Wall Street's workflows - Fortune India, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.fortuneindia.com/technology/anthropic-and-perplexity-are-racing-to-automate-wall-streets-workflows/136230>
 43. 日経平均株価 取引時間中の最高値更新 5万8000円台回復 アメリカAI企業「アンソロピック」が自社AIと既存ソフトウェアを連携させる機能を発表 | TBS NEWS DIG - YouTube, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.youtube.com/watch?v=lxKHC075WgY>
 44. FINRA Issues 2026 Regulatory Oversight Report | Data Matters Privacy Blog - Sidley Austin, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://datamatters.sidley.com/2025/12/16/finra-issues-2026-regulatory-oversight-report/>
 45. Financial Regulators Consider Responses to Advanced AI Threats | PLANADVISER, 5月 7, 2026にアクセス、
<https://www.planadviser.com/financial-regulators-consider-responses-to-advanced-ai-threats/>

46. Will Anthropic's AI Agents Conquer Wall Street? | Disruption Banking, 5月 7, 2026
にアクセス、
<https://www.disruptionbanking.com/2026/05/06/will-anthropics-ai-agents-conquer-wall-street/>